



特集

ありむら 治子

はるこ

神政連レポート
 ところ
 別冊版



ありむら 治子

はるこ

ありむら三か条

政治活動で、最も大切にしている価値観です

- フェア(公正)であること
- 誠実・堅実・実直であること
- 勇気を持って行動すること

命の重みを守ります

- マタニティマークを全国に普及させた母親の視点も活かし、国民の命を守り、安全安心を創る施策を推進します。
- 「教育は国民性を創る礎」 日本をとりまく内外の問題を的確にとらえ、世界に広く目を見開き貢献できる、誇りある日本人を育みます。

家族や地域の絆を守ります

- 人口減少・高齢化が進む日本にあつて、誰もが健やかに暮らし参画できる、持続可能な社会の仕組みを作ります。
- 子供達の安全と子育て世代の安心を具現化し、世代間や地域間の相互信頼が深まる政策を重視します。

日本の尊厳を守ります

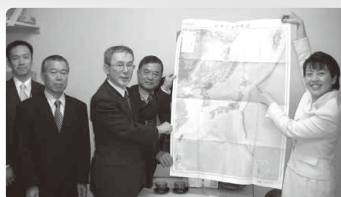
- 世界に誇るご皇室の尊厳を守り、日本の国柄を堅持します。
- 平和と日本の独立主権を守り抜く憲法を、国民の手で作り上げる最前線に立ちます。

初代女性活躍・少子化対策担当大臣の経験を活かして

共に歩んでいただいて3期18年。
有村は全国にプラスとなる政策を実現してまいりました。



マタニティマークの誕生



領土に関する教科書記述を正常化



教科書無償制の意義を明記



全国的に不足する保育士の処遇改善



子ども・子育て本部を設置



大臣記者会見での発信



女性活躍での国際連携

鼎談



后両陛下が国民のために祈り続けてくださることは、我々にとっては言葉にできないかけがえのないことであり、これが日本の伝統として脈々と続いています。

打田 歴史上、御代替の約半分は御譲位によるものですが、明治以降に、御譲位の形で御代替が行われた例はありません。

今般の御代替に関連して、私が懸念していることが新元号の公表についてです。現在、新元号については、新帝御即位の一カ月前を目途に予め発表する案が検討されているようです。真実は定かではありませんが、本来、このようなことが検討されること自体、不敬なことだと思います。元号を定める政令の公布は、御即位後に新帝が行う最初の国事行為です。また、今回は予め御譲位の日が決まっているので、平成の御代替の時よりも混乱は抑えることができ、システムの変更についても事前の準備は可能であると思います。

元号は日本人の文化そのものであり、今日まで元号を使用する伝統が継承されてきたことの意義

皇室の御存在——明年の御代替に向けて

有村 「平成」という私たちの人生の多くの時間を占める時代も、残すところあと九カ月となりました。「平成」とは「内平らかに外成る」、「地平らかに天成る」という意味があります。まさに国内外、天地ともに平和な時代が訪れるようにと、天皇陛下と国民ごぞつての祈りが込められた時代を私たちは生きています。昭和から平成へと時代が移り、平和を希求された天皇后両陛下のもとで、三十年間生きてこられたことに、多くの国民はありがたいと率直に感じておられると思います。

井上 今回の御代替は、天皇陛下の崩御という悲しみを伴う御代替ではありません。先帝陛下が崩御された時は、日本国中が悲しみに包まれました。今でも忘れられないのが、二重橋前で一人の女子高生がハンカチで口元をおさえながら涙を流していたことです。

皇室の威厳と厳粛さは、今後も、若い人たちによって、守られていくべきであると思います。天皇皇

を広く訴えていく必要があると思います。

有村 元号とは、陛下と国民がともに祈りを込めて生きた時々の時代を表すものであり、私たちの財産です。新元号の公表時期については、今後議論になると思います。が、この際だから「西暦を使用しよう」ということではなく、先人が持ち続けた元号の重要性に鑑み、元号について、あらためて考える機会でなければならぬと思っています。このことを念頭に置いた上で、来年の御代替を国民ごぞつて奉祝できればと願っています。



「感謝」のころー変化する若者の意識

井上 最近、靖國神社に参拝した時に、若い人たちの参拝が多いことに驚いております。インターネット等を通じ、若い人たちが、これまで封印されてきた事実や正確な情報を知ることができるようになってきたからではないでしょうか。若い人たちは、靖國神社のことについても、正しい情報を簡単に入手することができる。このことが大きく影響しているのだと思います。

打田 それは良い傾向だと思います。学ぶべき大切なことは何か、一つずつ紐解きながら正しく伝えていく必要があると思います。井上さんは予てより、「戦歿者の慰霊が原点」と仰られており、私もまさにその通りであると思っています。これは今後の課題になるのですが、来年、靖國神社が御



人が戦ってくれたおかげなので「感謝」の気持ちを持って慰霊しているというのです。驚きでした。彼らは、歴史を客観的に学び、先人に「感謝」の誠を捧げていたのです。近年、こうした若者が増えている感があり、世の中が良い方向に向かっていると感じます。

打田 彼らは誰に教育されるでもなく、大事なことに自発的に気付きはじめているのでしょう。我々は、若い人たちが大事なことに気付く機会となるような発信をすることが大切であると思います。

井上 その通りだと思います。その上で、人への「伝え方」を常に考えていかねばならないと思います。例えば、私は「神道」について説明する時に、難しいことを一から説明するというのではなく、簡潔に説明することを心掛けています。私は、神道は日本の文化であり、一つの宗教と捉えること自体が

創建百五十年を迎えます。御創建百年の時には昭和天皇と香淳皇后が行幸啓されています。更にその五十年前には、大正天皇と皇太子殿下が御親拝なされています。来年、百五十年を迎えるにあたり、天皇陛下に御親拝戴けるように、我々として何ができるのか考えているところです。

井上 五月二十七日の海軍記念日に靖國神社を参拝した時に、四人の少年たちが、シベリア出兵で玉砕した田中支隊の忠魂碑の前で、直立不動の姿勢で「君が代」を斉唱し彼らなりの慰霊祭を行っている場面に出くわしました。私はあまりの感動に涙がこみ上げてきました。そして、ひと通りの式典が終わるのを待つて彼らに声をかけて話を聞いてみると、この少年たちは、中学三年生の同級生だということがわかりました。そして彼らは、戦争時に、自分たちと同じぐらいの年齢の

戦後の大きな誤りであると発信しております。そしてこのことは、若い人ほど理解してくれているように感じます。

打田 神道は、「教えを通さず、道を悟る」ものであり、良識として日本人の心の中に存在します。だからこそ、一般の宗教とは異なり、自然に受け入れられるのであると思います。「感謝」をするという文化は本来、日本民族の根底にあり、その部分に気付かせるということは大事であると思います。

井上 最近の若い人たちは、「感謝」することに素直であるように思います。神社を参拝する若い人が「感謝」の気持ちを持って、神様に手を合わせている姿は本当に素晴らしいと思います。

有村 本年は明治改元から百五十年の節目の年であり、明治、大正、昭和、平成という四つの時代を経た百五十年の時間の流れの半分は、私たちが



生きてきた戦後の時代です。この百五十年の歴史を学ぶことは、単に教養としての歴史ではなく、世界に目を見開き、矛盾を背負いながらも、先人が全力で困難に立ち向かい、命を繋いできた、生きた証としての歴史を学ぶということです。現在の若い人たちは、自らの感性で日本を感じ、日本を見つめたいと考えるようになったのだと思います。その根底にあるのが、全国の神社の存在であり、いまこそ、先人の知恵や教訓を学び、未来に活かすことの重要性を発信していきたいですね。

井上 先人の歴史を子供たちや若い人たちに伝えるには、上から目線ではなく、同じ目線で、子供たちや若い人たちが共感できるような形でメッセージを投げかけることが大切であり、この点は常に心掛けておかねばならないと思います。

打田 西日本豪雨の復興作業について、ニュースでは夏休みに入り子供たちのボランティアが増えたと報道していますが、この状況は、日本が良い方向に向かっている一つの証左であります。またこのような若者が潜在的には多数いると確信していま

打田 現在の憲法が実生活に馴染んでいるか否かということは、国民投票において、判断すべき観点の一つであると思います。護憲派は統計的にも団塊の世代が多いと思いますが、彼らは憲法の議論すらタブー視しています。国会においては、野党は憲法審査会での審議を拒否するなど、何としても憲法論議をさせないようにと躍起になっています。

井上 年代によって考え方の違いは大いにあると思います。憲法改正の必要性を理解してもらうには、いわゆる神学論争に巻き込まれず、現実を訴え

す。そこで彼らの心のスイッチをオンにするためには、先人からの教訓や徳目を活かす教育が最も有効だと思います。

国防のあり方と憲法のかたち

井上 私は、憲法問題について話しをする時、「憲法改正」という言葉をあまり口にせず、皆が常識で考えられるよう、わかりやすい身近な例え話をもつて説明するようにしています。

例えば、我々が防衛力を整えることは、雨が降りそうな時に、折り畳み傘を持って出かけることと同じ、だという具合です。当たり前ですが、「折り畳み傘を持っているから、雨が降った」という人はいません。万が一の事態への備えです。笑い話ですが、自衛隊があるから戦争になるという理屈は、消防署があるから火事がおきる、交番があるから犯罪がおきると言っているのに等しい。激動する社会において、万が一のことを想定していない日本の現状に、若い人たちは違和感を抱いていると思います。

つつ一つずつ丁寧に問いかけていけば、若い人たちを中心に憲法改正を必要とする声は必然と上がってくるのではないのでしょうか。

有村 国家にとって最も大切なことは、国が存在し続けることです。国家の安全を担保することとは、国民の生存可能性を高める努力を続けることと同義です。国民投票で過半数の国民の賛成がなければ憲法改正ができないという現実の中で、過半数の賛同を得るためには、改憲派でも護憲派でもない「中間層」にどれだけ理解を戴けるかということが鍵になります。

井上 国民は憲法改正の必要性について理解し始めていると思います。改憲に反対する野党はこれに気付いているからこそ、反対姿勢を強めているのではないのでしょうか。憲法を変えてはいけないといいますが「なぜ変えてはいけないのか」ということについては何ら議論されていないと思います。この状況はどう考えても不健全であり、政権が気に入らないから反対するというのは、話になりません。

有村 例えば、現憲法の最大の特徴の一つと言わ

れる「平和主義」について考えてみましょう。「平和主義とは何か」を考えた時、「ただひたすらに平和・平和と叫び続けること」なのか、それとも、「かけがえない平和を創り固めなすために必要な手を打つこと」と認識するのかでは、その後の行動は全く分かれます。当然、平和を叫ぶだけでは、真の平和は訪れません。私が講演の中で、国防のあり方について話をする時、「家ではしっかりと戸締りをするのに、国の戸締りはしなくていいのですか」と尋ねると、多くの人がこのままではいけないと危機感を持たれます。最近特に、国が無防備な状態であることに對する矛盾に気付いて下さる人が多くなってきたと感じています。

打田 この異常さは指摘していかねばならないと思います。実生活に例えれば、近所に怪しい人が住んでいるとなれば、それまで開けたままにした玄関に鍵をかけて、番犬でも飼おうかという話も当然出てくると思います。これが当たり前の対応であって、そのような中でも「何もしない」という人は本当に少ないと思います。

を持つことが「合憲」か「違憲」かということばかり議論して、憲法をどのように変えなければならぬのか、日本の内外にどのような危機や脅威があるのかという議論はほとんど行われて来ませんでした。戦後、日本を取り巻く現状は大きく変化してきています。憲法制定から七十年以上が経過し、世界が激動する中で、憲法を一言一句変えないということが果たして私たちの生存可能性の向上に繋がるのでしょうか、という議論が必要です。合憲か違憲かの神学論争を、建設的な次の段階に動かす時です。

打田 憲法改正の必要性について、一つずつ丁寧に説明をしていけば、多くの人は分かってくれると思います。まずは停滞している憲法審査会を動かすための具体的な手続きについて検討すべき時を迎えていると思います。神学論争ばかり繰り返していても何も始まりません。国民に問うべきことはきちんと問うことが大事であり、そこに異論を挟む余地は全くないと思います。

有村 憲法改正を成功させるためには、「抑止力」



井上 現在、憲法改正に反対している人の中にも、「絶対に改正してはいけない」と頑なに考えている人ばかりではなく、丁寧に説明すれば理解してもらえる部分もあると思います。どうも憲法を守ることが、まるで目的であるかのような主張もありますが、それはおかしいでしょう。目的は、国民の生命と国土を守ることなのです。憲法を守るなら国が亡びてもよい、などと本末転倒なことを考えている人はいないでしょう。

有村 憲法の議論において、日本は戦後、自衛隊

という重要な概念を、国民の皆さんにしっかりと伝えたいかねばなりません。「他国に戦争を起こさせない」、「日本に対する挑発をさせない」よう、相手の軍事的意図を思い止まらせる力こそが「抑止力」であり、その「抑止力」の実効性を高めるための自衛隊であり、日米同盟であり、憲法です。他国から軍事的いさかいを仕掛けられないために、どのように自国を守るのか。「侵略しない」と同時に、「侵略されない」ために、抑止力として自衛隊を持つというのが、「戦争しないための」自衛隊の姿です。

現憲法は、敗戦後のGHQ占領下で作られています。他国の軍人に統治されていた日本の実情、占領下という、独立主権が無い時代に作られた憲法の制約を、史実に即して丁寧に伝えたいです。

打田 まさに「備えあれば憂いなし」だと思います。来年に御代替がある中で、これだけの重大な出来事が重なるということは偶然とは思えません。明治時代に出された五箇條の御誓文や教育勅語、大日本帝国憲法の精神は決して古びておらず、正しく理解することで、現在の社会のあり方や私た

ちの生き様等について、考え直すヒントを見出すことができると思います。

有村 その通りですね。占領下で制定された現憲法には、「日本の独立を守る」という価値が書かれていません。私は、日本の独立を守り抜くという国家国民の意思を明確に憲法に書き込むべきだと考えます。平和と独立があつてこそ、主権国家の繁栄があります。このかけがえのない価値を守るために、憲法に自衛のための実力組織としての自衛隊を位置付け、内閣総理大臣を最高指揮者とする文民統制の鉄則を明示する必要があると思います。「侵略戦争をしない」ということは当然のことですが、「侵略戦争を絶対にさせない」ために、「日本の国は自分たちで守る」という、独立国家として当然の矜持を憲法に明記すべきではないでしょうか。自らの生存可能性を高め、我が国の平和と安全を守るために、どのような言動を行うべきか考えることのできる日本人でありたいです。

井上 今の日本人の安全保障感覚の中で、「侵略をさせない」という感覚が、欠落していると思います。

してモリ・カケに終始する、極めて内向きな国会論戦であつていいのか。今こそ大局観を持った国家観が求められます。



す。いかなる外敵にも日本を侵略させないという思いで、その意思を憲法に明記するというところに大賛成です。

多くの国民は、国会議員の皆さんに国会で、厳しい国際情勢を踏まえた上で、いかに国民の生命と財産、そして国土を守るのかを議論してもらいたいと思つているはずです。そしてそのための現実的な憲法議論を期待したいです。

有村 国政に身を置く政治家であれば、国家の存亡や国民生活の盛衰を考えるにあたり、世界に目を見開いて、その現状を主権者たる国民に伝えることが重要です。それができるか否かが、本物の政治家かどうかの判断基準であり、私自身、主権者たる国民の信頼や評価に耐えうるような政治家になることを志してきました。

国際環境が激変し、急速に進む人口減少・少子化問題という国難を抱える中で、日本がどのような安全にかつ豊かに生き延びていくか、その戦略を議論しなければならぬ時を迎えています。そのような時に、先の通常国会が典型ですが、果た

打田 安全保障の他にも、自民党は憲法改正の優先項目として「教育環境の充実」を掲げています。教育環境の充実に向け、方法論には様々な議論があると思いますが、人口減少・少子高齢化社会の中で、日本の国力をきちんと守っていく技術力を育成していくためにはやはり「教育」が重要であると思います。

井上 たしかにその通りだと思います。「国を守る」ためには、単に自衛隊の装備の充実だけではなく、隊員の高い士気や、国民の国防意識は重要だと思っています。

例えば東日本大震災時、自衛隊員は自らの危険を省みず崇高な使命感をもって人命救助を行い、真心を込めた被災者への救援活動に取り組みました。これはまさしく自衛隊員への「教育」の賜物であり、二十四万人の自衛隊員の士気の高さにいたく感銘した次第です。東日本大震災の取材時に、徴兵でもなく自ら志願した自衛隊員が、このような気持ちで任務にあたってくれている姿を目の当たりにし、感謝の気持ちが湧きあがると同時に、



教育の重要性をあらためて認識いたしました。やはり国の守りには「教育」は極めて大切であり、また「教育」はなにより防衛力ではないでしょうか。

打田 教育は「国家百年の大計」といわれるように、非常に大切なものです。これまで築き上げてきた日本の長い歴史の中において、教育の存在は非常に大きいと思います。ただ、

教育の重要性を広げるための方法等については、現在の法体系に合う形で進めていく必要があると思います。

私は、憲法改正について説明する時に、「なぜ神道政治連盟が憲法改正を訴えるのか」ということについて説明していますが、答えは非常に簡単です。全国の神社では年間を通して、多くの祭りをおこなっていますが、大御代の弥栄と国の隆昌と安全を必ず祈念しています。私は、その祈りを実現させるために行動に移すことは当たり前のことと思っています。神職も一般人と何ら変わりはありません。我々が日々の祝詞で神々に祈念していることの実現のために、大いに発信していくことが大事であると思います。

有村 神道政治連盟が憲法改正について真摯な議論を重ねて下さっていることは、六十三年前の結党以来、憲法改正を党是としてきた自民党の議会人として大変有難いことと存じます。憲法改正に向けてここまで具体的な案文ができた土台には、国民投票法という憲法改正に必要な手続について立

法化した第一次安倍政権の功績があります。改憲に向けて、主権者の声をどう活かすのか、国民投票の具体的手段について定めた国民投票法があつて初めて、憲法改正が現実的政治課題となりました。その意味で、安倍政権の日本に対する歴史的貢献はきちんと評価されるべきことであり、今後も発信していきたいと考えます。

おわりに

打田 約五十年前、神道界でも国民運動を展開し、同志の政治家とも連携していくことが肝要であると考え、神道政治連盟は設立されました。皇室の尊厳維持運動や、憲法改正運動の推進など、神道連が取り組むべき課題は多岐にわたりますが、日本らしさを取り戻すべく、有村議員をはじめ、同志の国会議員の方と手を携えながら、一歩ずつ着実に施策を進めていくことが肝要であると思っています。

有村 来年夏の参議院議員選挙を迎えるにあた



井上和彦氏 プロフィール

ジャーナリスト。昭和38年滋賀県生まれ。法政大学社会学部卒。専門は軍事・安全保障・外交問題・近現代史。バラエティー番組やニュース番組のコメンテーターを務める。“軍事漫談家”の異名を持つ。フジサンケイグループ第17回「正論新風賞」受賞。著書は『日本が戦ってくれて感謝しています』『撃墜王は生きている!』など多数。

り、此度、神道政治連盟より推薦を戴きました。神道政治連盟は、日本の安泰と国民の安寧のために、国民が持つ良識に訴えて国民運動を展開されてきました。真面目に実績を積み重ねてきた皆さまの信頼や期待を戴いて国政の議席をお預かりしていることを誇りに思い、また責任もずしりと感じます。今後も引き続き、皆さまの信頼にお応えできる政治家となるよう、心して努力を重ねて参ります。

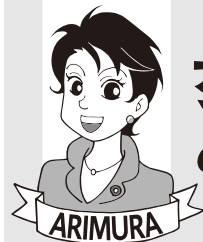
井上 是非、有村先生には頑張つて戴きたいと思っています。

History

ありむら治子の歩み

はるこ

昭和45年9月21日生まれ
滋賀県出身。生まれたのは石川県。
有村家のルーツは鹿児島県。



平成13年

●参議院議員選挙 比例代表(全国区)
で神道政治連盟から推薦を戴き初当選
(三十歳)。

平成17年

●文部科学大臣政務官就任
●参議院・予算委員会において、北方領土
をはじめとする領土問題の教科書記述に
ついて質問。

NHK全国中継が入る初めての国会質疑
で領土問題を取り上げ、この質問が、教科書
における領土教育拡充の契機となった。

●参議院・文教科科学委員会において、小中
高で使われている社会科教科書の「領土
記述」の問題点を追及。

全五十七冊を
チェックし、不適
切な記述を行って
いた教科書会社
二社が訂正した。



北方領土をはじめとする領土
問題・主権に関する問題に今後
も積極的に取り組んで参ります。

平成18年

●「マタニティマークを
全国統一にすべき」と
首相官邸で提案し、
新しい命を育むお母
さん達を応援。
●教科書無償制についての投書が全国紙に
掲載。



平成19年

●参議院・文教科科学委員会において、教科
書無償制の意義を訴える。

有村の提案により「この教科書は、これからの
日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の
税金によって無償で支給されています。大切に
使いましゅう」との文言が、義務教育におけ
る全ての教科書に明記されるようになった。

平成19年

●参議院議員選挙 比例代表(全国区)で
神道政治連盟から単独候補として推薦
を戴き二期目当選。



日本列島を横断した選挙カー。手づくりのノボリで
激励戴き、戦い抜く力を賜りました。



商店街を、「桃太郎」行進

●自民党女性局長就任。

●参議院・内閣委員会において、政府内での
北方領土「歯舞群島」「歯舞諸島」の名
称混在について質問。

この結果、北方領土返還運動で定着して
いる「歯舞群島」に名称が統一され、「歯舞諸
島」と表記していた全国の地図も、名称が統一
され一新された。

平成20年

●参議院・内閣委員会において、映画「靖
国」に対する文化庁の助成金支出の問題
点を質問。

この質疑は全国紙でも取り上げられ、公
正な文化庁行政の実現に向け助成金制度
が改善される契機となった。

●参議院・内閣委員会において、北京五輪へ
の皇族ご出席を要請してきた中国の姿
勢を牽制。

中国の人権問題が取り沙汰される中、日
本の皇室が政治利用されることを警戒した
この質疑が契機となり、日本政府は欧米諸
国同様、皇族・要人の出席見送りを決定し、
全国紙一面で報道された。

●参議院環境委員会委員長就任。

平成22年

●尖閣諸島沖における日中の船の衝突事
件を受けて、菅総理に対し質問主意書を
提出し、民主党政権の未熟な外交政策を
質す。

平成24年

●参議院・予算委員会において、民主党政権が企図していた女性宮家の危険性を追及。

「女性宮家の創設」が、陛下のご意思ではないことを明らかにした。この国会質疑はその後書籍等で度々引用されている。

●東日本大震災被災地のガレキ処理現場の視察を踏まえ、全都道府県でのガレキ処理受け入れ推進を提言、政府の方針を決定づけた。



被災地のガレキ処理現場を視察

「政教分離」の原則のため進まなかった「被災地の心の復興」に粘り強く取り組み、「福島県復興祈念公園計画」に理念を盛り込む。



「コミュニティ及び地域伝統文化継承に関する説明会」会場

平成25年

●「女性宰相待望論」出版。山谷えり子・稲田朋美議員らと共に取り上げて戴く。

●参議院・内閣委員会において、宮内庁が今上陛下の御陵、葬送方法を発表したことについて質問。

陛下が心臓手術を終えられて健康にご留意される中、そのようなことを公表する宮内庁の在り方を追及。

●参議院議員選挙 比例代表(全国区)で神道政治連盟から単独候補として推薦を戴き三期目当選。



時事通信・加藤解説委員長が、国家観を持つ女性国会議員を9人選び、対談本「女性宰相待望論」を発行。



「GO! ARIMURA」の手作りシャツの応援に励まされ全国を走り抜きました。

平成26年

●第二次安倍改造内閣及び第三次安倍内閣において、初代女性活躍担当大臣など国務大臣(行政改革・国家公務員制度・規制改革・少子化対策・男女共同参画・消費者及

び食品安全担当)に就任。



女性活躍推進のための部局を内閣府に設置し、総理と「看板かけ」。



ケネディ米国大使をはじめ、日本に駐在する各国の女性大使をお迎えして。

平成28年

●自民党キャリア教育推進特命委員長就任。

●自民党政務調査会会長代理、参議院自民党政務審議会会長代理を拝命。

●参議院・予算委員会において、国籍法と二重国籍、シベリア抑留問題と今後の日口関係、戦歿者遺品のネットオークション売買について安倍総理に質問。

この国会質疑が契機となり、戦歿者遺品(寄せ書き日の丸)の競売はサイト運営者の自主規制の対象となった。また、国会議員や公務員が二重国籍を持つことの危険性を明らかにし、具体的事例をあげて「政治家が同一の国籍を持つのは、国家国民に対する忠誠の基本」と明言し、国籍の重さを訴えた。

●自民党憲法改正推進本部副本部長、自民党行政改革推進本部本部長代理を拝命。

●参議院・内閣委員会において、NHKが中国国旗の下に日本国旗を配した映像を全国放送したことを追及。

NHKの報道姿勢を質したこの質問は動画サイトで二十五万を超えるアクセスを重ねる。



上:平成29年4月13日参議院・内閣委員会での質問。
下:平成29年4月3日NHKニュースウオッチ9の映像。



●参議院・「天皇の退位等に関する皇室典範特例法案特別委員会」において、女性宮家の創設等について検討する旨を盛り込んだ附帯決議に唯一反対の意思表示をし、万世一系の皇統の価値を月刊誌に発表。



神道政治連盟はありむら治子さんを推薦します

参議院議員・自民党
比例代表(全国区)選出

ありむら治子

神政連は、自民党の第一次公認を得た

ありむら治子さん(神政連国会議員懇談会副幹事長)を
推薦することを機関決定しました。



ご存知ですか？

参議院比例代表(全国区)選挙の投票方法

“**全国すべての地域**”にお住まいの方に
“**候補者名**”を書いて頂ける選挙です

1枚目 **都道府県選挙区**

候補者名を書いて投票



2枚目 **比例代表**も

候補者名※を

